

ありす

in CyberLand 2

第七のプロトコル

PART-1

デンジエルの挑戦

Version 1.0

脚本ノ小中千昭

Animation Play by Chiak J. Konaka

1996/09/18

登場人物

水無月 ありす(15)

鳳 麗奈(15)

八神 樹莉(14) 遅生まれらしい。

デンジエルズ

エリーズ・ボードリヤール(17)

マキシム・エリクソン(13)

フレダ・ミロノフ(15)

イリアッド・ムジャリ

サイバーナキスト

グール〔騎士系〕

ビースト〔獣系〕

情報エリート

竜崎 恭子(28)

ジェニー・キーツ(22)

ダンジョン

暗い回廊に足音が響く。

中世の城の中の様な、蝋燭灯りに浮かぶ男の影。

ホール

広い空間に入ってくる男。

と、そこには何十人も美しい女たちが薄衣をまとって立っている。あらゆる人種の美を究めた女たち。

女 1 「(かしづいて)お待ちしておりました、ご主人様」

女 2 「ずっとお見限りだったんだからあああん」

男、マントを脱ぎ、たくましい容姿を見せる。

女たち「(一斉に)きゃあああああつ！ グール様素敵ーっ」

目をマスクで覆ったグール、笑う。

男 「女など醜い生き物だ。お前たちを飼ってやっているのは

この俺の慈悲だ。その事を忘れるな！」

女たち「はーいっ！」

ボソつとした声「ばっかじゃないの？」

こらこらという声「シーツ」

グール、「ん？」と見回す。

女たちも周りをキョロキョロ。

グール「不満を持つ者が居るようだな」

女 3 「いえそんな！」

女 4 「グール様に不満なんて！」

グール、見回すが、美しい女たちは目を潤ませて彼を見つめるばかり。

グール「——全員……、ラジオ体操始め！」

鳴り出すピアノ。

女たち、従順にラジオ体操を始める。

グール「まずは背伸びの運動から。はい、いっちにいさーんしい」
指揮しつつ見つめているグール。

と——、後方に三人の女が体操をしないでいた。
ギョーンニ グール、その三人の前へ瞬時に移動。

そこに立っているのは——大人っぽい衣装とメイクをした、ありす、麗奈、樹莉。

樹莉「わっ、見つかっちゃっよお」

麗奈「何が悲しくてサイバースランドでラジオ体操しなきゃなんないのよ。ちゃんとハンコくれるんでしょね？」

樹莉「でも麗奈っつ。あたし小3の時に皆勤したのにー、何にもくんなかったんだよー（口を尖らせ）」

グール「お前ら何だ！ 何してんだっ！」

樹莉「スーパーモデルのデジタル・データを盗んじゃう様な、サイバースランドの悪い人をやっつけちゃいまーす」

グール「どうせコピーじゃないか！ 俺が何しようが勝手だっ！」
ありす「デジタル・データのオリジンはそうは思わないよ。あそ

こにいるみんなは、人間なの。サイバースランドだからって、何でも悪いことしていいなんて事は、ないっ！」

グール、バトル・モードに変形。どっから湧いて出たのか全身火器武装。

グール「ほざくなっ！ いい子ぶる奴は嫌いだっ！」

襲いかかるグール。

麗奈「あたしが行くっ！」

麗奈、向かってくるグレネード弾や銃弾をかわしてグールの前へ突っ込む。

グール「なめるなあああっ！」

ガキッ！ グールと組み合う麗奈。

麗奈「くっくっくっ！」

ありす「危ない！ 麗奈っ！」

グールの体から無数の歯医者器具の様な機械枝が生え、麗奈を襲う。

麗奈「キヤアアアアッ！」

樹莉「麗奈っ！」

ありす、突っ込んでいくっ！
ありす「麗奈に酷いことをしてっ！」

ぐったりと床に倒れる麗奈。グール、ありすを待ち構える。

グール「お前たちもコレククションしてやる！」

ありす「最低野郎ニ デイスインフェクタント・ソード！」

グール「お、俺はウイルスじゃないぞニ」

ありすが抜いた剣、光を放ち――

バリバリバリニ

グール「ぐわあああああああつニ」

消滅していくグール。

やがて、周囲に立っていた女たちもノイズと共に消えていく。

樹莉「あいつ、どこ行つた？」

ありす「あんなに痛い思いさせなくても良かったかな……」

麗奈「（立ち上がり）あれくらいやつて当然だよ。当分はサイ

バーランドに潜って来る気、なくなってるよ」

ありす「（NAVIを見て）あ、いけない。早くエキジットしなくちゃ！」

樹莉、ステイックを天井に向ける。

淡い光がステイックから立ちのぼり、ホール天井の石が消滅してサイバーランドのメイン画面が見える。

ありす「エキジット！」

三人、ふわりと浮かび、虚空に向かって上昇していく。まるで深海から波間へ泳ぐ人魚たち。

S「ありす in CyberLand 2 第七のプロトコル」

ミスカトニック学園中等部

アイビーが覆う伝統ある学校。

校門に文化祭用のゲートが作りかけで設置してある。生徒たちが三三五五に校舎へ向かっている。ありす達もその中に。

ありす「もうすぐ文化祭かあ……」

樹莉「ねーねー！ 今日のお昼さー、早めにランチ食べてアイヌ食べに行こうよ！」

麗奈「三年生になったつてのに、あんたはちっとも成長してない」

ありす「（苦笑）だね」

樹莉「してるもーん！ 胸だつて1センチ増えたもーん」

麗奈「ウエストも、でしょ」

樹莉「うっ……。なぜそれを……」

ありす「あたし、模試の手続きしなきゃいけないの」

麗奈「えっ？ ありす、受験するの？」

樹莉「うそー！ ありす、高等部行かないのーっ？」

ありす「まだ決めてないけど。どうしようかなって……」

麗奈「そっか……。ありすみたいなた子には、この学園って向いてないのかな」

樹莉「うそー！ あたしを置いていくのねっ」

ありす「（苦笑）まだ決めてないってば。さっ、早く行こ。遅れちゃうよ！」

走りだすありす。続く二人。

樹莉「まってよー、ありすーっ！」

教室

かつてデジタル女神・ルシアだったデジタル・テイ
ーチャーが、各机上に浮かぶ仮想モニタに浮かんで
いる。

ありす「（独白）——ルシアは、もう前の事は覚えていないみたい……。あたしにダイヴ・システムをくれた、あのル
シアはもう、いない……」

ルシア「水無月さん、ちゃんと聞いてますか？」

ありす「あ、あつ、えと、ごめんなさい！」

麗奈、怪訝そうに振り向く。

麗奈「ありすが珍しい……」

ルシア「今週から、この学校のオペレーティング・システムをコ
ミュニファイに入れ換えます。ブラウザも個別のアプリ
ケーションも、それに伴い入れ換えますので、みなさん
早く慣れてくださいね。基本的な使い方は変わりませ
んが、256bit処理の可能なコミュニティファイは、ずつ
と快適に授業もテストも行えます」

樹 莉「快適なテストなんてありえないよう。ねえ、ありす？」
ありす「う？ うん……。コミュニケーション、か……。最近すこ
いんだよね、この会社」

画面にコミュニケーションのロゴが浮かんでいる。

廊下／放課後

トントンとナグリがパネルを叩く音がそこから
響き、妙なコスプレした女子が走り廻り、机を運び
出す男子がけつまづき……。

麗 奈「文化祭か……。あたしたちのクラスも何かやればいい
のに」

樹 莉「めんどくさいからいいって意見を出したのは麗奈だよ」

麗 奈「そうだっけ（ポリポリ）」

ありす「まあ、色んなところを見て回ればいいじゃない。お客さ
んになって」

樹 莉「でもあたしー、焼きそばとか作りたかったかもー」

麗 奈「お客さんじゃいまいち盛り上がらないよな」

ありす「じゃ、あたしたちの文化祭に行けばいいよ！」

麗 奈「あたしたちの文化祭、って？」

ありす「あたしたちには、一年中文化祭があるじゃない」

樹 莉「サイバーランド！」

麗 奈「久々にダイヴしますかー」

走り出す三人。

鳳家

渋谷・松橋にある邸宅。

門を開けて駆け込んでくる三人。

同／エントランスホール

ありす「こんにちはっ」

麗奈ママ「あーら、ありすちゃんたち、お久しぶり。ね、あたし

ちよつと変わったと思わない?」

樹 莉「お邪魔しますー」

麗 奈ママ「あ、あの、ちよつと。あたし痩せたと思わない?」

前を通過していく三人。

麗 奈「痩せたつて、たった1キロじゃないよ」

麗 奈ママ「その1キロの為にあたしがどれだけ汗と涙を流したか

あなたたちには判らないのよ!」

無視。

ダイヴ・ルーム

地下室の電磁ロックが開くと、自動で照明が灯り、まるでロボット・アニメのひみつ基地の様なマシン・ルームが露となる。

麗 奈「さ、着替えよつか」

制服を脱ぎはじめるありますたち。

シュツ。ドライスーツのジッパーを上げていく。

ドライスーツ姿の三人、アイソレーション・タンク脇に立つ。

樹 莉「今日はどこ行く?」

麗 奈「ちよつと深いとこまで行ってみよつか」

あります「ゲージ・チェック」

互いの腕のNAVEIパネルを見せ合う三人。

麗 奈「おっけー」

樹 莉「だいじょぶ」

タンクに横たわるありますたち。

ブシュ。液体が満たされていく。

あります「ダイヴ・イン」

タンク壁から無数のチューブが延びて、ドライスーツに結線していく。

目を閉じるありす。眼前に光が――。

サイバースランド／縦パス

ゴオオオオオオオ。

ありすたちが、陽光を背に、笑顔で下層へと潜って
いく――。

しかし――

麗 奈「あり？ あれ何だ？」

レヴェル1（WWW）

広大な蜘蛛の巣状に広がり、未来都市の様な構造物
が立ち並ぶ世界。

そこを、小さな青い物体がビュンビュンと幾つも飛
行している。

ありすたちが降下してくる。

と、トランプ型のネットサーファーたちが手を振つ
て集まる。

市民1「やあ、サイバーアイドルだ」

市民2「久しぶりじゃないかーっ。寂しかったぞーっ」

樹 莉「（あははは）ごめんね。でも、最近平和だったでしょ、

サイバースランド」

市民1「平和なもんだ」

市民2「平和なもんだ」

ありす「ねえ……、あの青い人たちってなあに？」

市民3「ああ、あいつらはアレだよ。コミュニファイのネット・

アクセサーを使ってるんだ」

ありす「コミュニファイ？」

市民1「いいよな、あれ。めっちゃめっちゃ早く動けるんだって」

市民2「機能だつてすごいんだよ」

市民3「ぼくも実はあれに乗り換えようかって思ってたんだ」

麗 奈「でも、確かに早いけど、なんか卵みたいで、変」

樹 莉「変って、そんなみもふたもない」

青い卵の様なネットサーファーが高速で行き来して
いく。

樹莉「あっ、見て！」

樹莉が差した方を見るありすと麗奈。

巨大な飛行船がゆつくりと上空を通過する。

その電飾広告版には『COMUNIFY』のロゴと、
カッコいい三人の女の子のムービング・グラフィアが
交互に表示されている。

市民1「あっ！ デンジエルズだ！」

市民2「デンジエルズだーっ」

トランプ市民たち、飛行船の方へびよんぴよんと跳
ねていく。

麗奈「何よあれ」

ありす「デジタル・エンジェルズ、デンジエルズか……」

S「D'angels save the Cyberland」

麗奈「あたしたちの真似っこじゃないよあれー。著作権侵害で
訴えてやる」

樹莉「でも、あつちの方がちよつとカッコいいかもしない」

麗奈「あんたが子供っぽいから負けてんでしょーがっ」

樹莉「みゅ〜……」

ありす「……」

ありすのマンション/夜

デンジエルズのプロモ・ビデオが卓上NAVIの仮
想モニタに映っている。

それを消す、パジャマ姿のありす。

ありす「—— コミュニファイか……」

ありす、NAVIに向かつて

ありす「アクセス、コミュニティファイ、テクニカル・レポート」

仮想モニタにコミュニティファイのロゴが浮かぶ。

ありす「サイバーランド・アクセサーのソースコードを見たいん
だけど」

合成声「それは公開されておりません」

あります「ま、そうだよね。じゃあ、仕様を見せて」

ズザツ。膨大な文字列がモニタに浮かぶ。
じつと見つめているあります。

あります「——これは——、すごいかも……。ただの256bit
i7アドレッシングじゃない……。ひよつとしたら、ア
リス・システムよりも進んでるのかも……」

吐息をつくあります。

あります「——あたし、いい気になってたのかな……」

窓外を見るあります。

東京上空

高層ビルが立ち並ぶ湾岸新都心。

その一角に、ぼっこりと巨大な縦孔が口を開いてい
る。まるでビルを裏返した様に、その側壁には無数
の窓が灯を点けている。

情報省監察センター

情報エリート、竜崎恭子とジェニー・キーツが、サ
イバーランドのホログラフを前に立つ。

青いフラグがそこに立っている。

ジェニー「コミュニケーション・アクセサーのシェアが凄まじい勢い
で伸びています」

恭子「—— 電脳世界は新しい者好きが多いとは言え、ちょつ
と不気味ね、この伸び方……。コミュニケーションは新しい
会社だったわね」

ジェニー、操作パネルに指でピピとタッチ。

ジェニー「まだ設立されて一年も経ちません。大手のソフト・ハ
ウスから優秀なプログラマーやデザイナーを次々にヘッ
ドハントしたので話題になりました」

恭子「そうだったわね。CEOは誰だったかしら」

ジェニー「——イリアッド・ムジャリ。名前だけで年齢、国籍
も公開されていません。これまで表には出た事がないん

です」

思案気な恭子。

恭子「——変なこと、考えてなきゃいいけど……」

ミスカトニツク学院／午前

校門に、『ミスカトニツク学園祭』のゲートが置かれている。

賑わっている校庭。出店の呼び込み。

ありすたち、アメリカン・ドッグを食べながら歩いている。

麗奈「ウチの文化祭って派手だよなー」

樹莉「次、焼きそば食べたいなー」

文化祭の校舎／校庭／講堂のマップで、それぞれワンシーンでも何かイベントがあると楽しいのでは？

中庭の中央近くにやってくる三人。

『のどじまん』の垂れ幕。ステージ脇には大きなスクリーンがマルチに展開。

壇上には、着物姿の女子が演歌を歌っている。

樹莉「あの子、毎日ボックス行きまくりだって」

ありす「だからうまいんだー」

麗奈「あたしに歌わせてみなさいよっての」

司会者の生徒が登場。

司会者「はいっ。祐天寺まりもさんでしたーっ！ こののどじまん大会は、サイバーランドを通じて、アメリカ・マサチューセッツのミスカトニツク学園本校と中継でお送りしています！」

麗奈「そんなまでせんでも……」

と、いきなり腕を掴まれるありす。

ありす「きゃっ」

麗奈「何すんのよー！」

男子1「君たち早くしてよもー。何こんなとこいてーっ！ 始まつちゃうんだから！」

ありすを引つ張っていく男子。

ありす「あ、あ、れれれれれ」

樹 莉「ちよつとありすーっ」

手をつなぎあつて、ずるずると引つ張られていく三人。ステージ裏の衝立の裏に消える。

男子1「やっとかまえたぜ！」

女子1「（オフ）あつ、来たの！ 早く着替えて！」

ありす「（オフ）えっ？ あの、あたしたち……」

女子2「（オフ）時間守ってくんなきや！ 早く脱いで！」

麗 奈「（オフ）あつ、ちよつ、そんな……」

樹 莉「（オフ）ケラケラケラケラケラ。そこくすぐつたい」

しーん……。

ステージ

パラパラと居た客たち、ぎよつとなつてステージを注視。

ありすたちがキャンディーズみたいな七十年代アイドルの衣装を着て、呆然と立っている。

麗 奈「な、なんであたしたちが……」

ありす「誰かと間違えられたみたい」

樹 莉「どうすんのお？」

と、『ありすのテーマ』イントロが流れだす。

麗 奈「う、歌うのおお？」

ありす「こうなつたら腹を決めていきましょ」

樹 莉「マジ？」

ありす「あたしたち、アリス3（仮称）です。聞いてください」

麗 奈「（ボソ）意外とノリやすいんだよね」

歌い出すありすたち。

おおおおっ！ と盛り上がる観衆。続々とステージ前へ詰め掛けてくる。

ありすたちも既に その気。ほぼ、アイドル状態。

エンディングにさしかかったその時！

ギギギギギギギギ二

奇怪な音声が会場を包む。

麗奈「何？」

学校の方々から煙が上がり始める。

キヤアアアツ！ 悲鳴を上げる生徒。

男子1「校内の制御信号が狂ってる！」

と、モニタに醜い獣人の顔が浮かぶ。

ありす「ハツキングされてる！」

獣人「随分楽しそうだな」

麗奈「何よあんた！」

獣人「サイバーランドに完全なる自由を！」

ありす「サイバーナキスト……」

麗奈「あんたの言う自由って、自由じゃないよ全然！ ただ人に迷惑かけてるだけじゃない！」

樹莉「そーだそーだっ！」

ありす、ハツとなつて見回す。

ギャラリーがありす達を啞然と見つめている。

生徒3「あいつ度胸あんなあ……」

ありす「（小声）麗奈、だめ。ここはサイバーランドじゃないよ。

あたしたちは普通の生徒なんだから」

麗奈「——いけね……そうだった」

獣人「アメリカとぶつ太いゲートウエイを使ってるから何してるのかと思えば。ケケケケケ。今開いているゲートウエイにウィルスを流しこんだら、楽しいだろうなあ」

樹莉「ひどい！」

ありす「——確かに今、学校同士を繋いでる国境のゲートウエ

イは無防備……」

麗奈「ありす！ 潜ろう！ あいつをやっつけよう！」

ありす「でも……」

巨大なモニタ前の三人は、聴衆の視線を一斉に浴びている。

樹莉「みんな、見てるよ、あたしたちのこと……」

麗奈「くそーっ」

獣人の嘲笑が響く。

サイバーランド／獣人の隠れ家

暗い空間。尖った山の頂きに立つロッジ。

同ノ内

リック・ウェイクマンの様に鍵盤やキーボードに囲まれて悦にいつている獣人。

獣人「ゲートウェイの容量分、遊ばせてもらうぜ」
キーボードを叩く獣人。

中庭

きゃあああああ！ 女生徒の悲鳴。

麗 奈「ありす！」

ありす「あれは——！」

虚空に、身の丈十mはあろうかという獣人のフォログラム映像が姿を現す。

獣幻人、出店などをなぎ倒し咆哮。
パニックになる中庭。

麗 奈「ありす、今の内に——」

その時！ 青い閃光がありすたちの背後から炸裂。
振り向くありす。

ありす「あっ！」

背後の巨大モニタにコミュニファイのロゴが浮かんでいる。

少女の声「サイバーナキスト ビースト、本名山本継夫。あなた
たのしている事はサイバーランドの秩序を乱す叛乱行為
よ」

獣人「うっ。なんで本名まで……。誰だ手前！」
モニタ内に映ったのは——デンジェルズの一人、
エリーズ。

ありす「——デンジェルズ……」
エリーズ「あなたがハッキングしているコムラインを切断するわ」

獣人「そ、そんな！」

あります「危ない！ そんなことしたら……」

モニタの中のエリーズ、ニヤリと笑い——、腕の装甲からマシン・ピストルの銃口を突出させる。

獣人「や、やめろおおお！ 俺の、俺の本名のIDをコムライ
ンから切断したら——」

エリーズ「世界中の笑い者ね」

獣人の隠れ家

脅えているコンソール前の獣人。

と！ 外から激しい銃撃。破壊されていくコンソール。

獣人「わあああああつ！」

ドオオオオオンニ 壁が爆破された。

煙の中からその美しい肢体をさらすエリーズ。

獣人「デ、デンジェルス！」

エリーズ「サイバーランドの秩序を守る天使、という意味よ」

エリーズ、獣人に銃撃。

中庭

ぎゃあああああああつニ

獣人の幻影、気弱そうな普通の高校生の顔になって

——デジタル・ノイズと共に消失。

静寂が戻った。

男子1「—— すごい……」

男子2「デンジェルスって、カッコいいよな」

ステージには—— 既にありすたちの姿はない。

住宅街の道

制服に着替えて帰宅していくありすたち。

樹 莉「——あの男の子、どうなっちゃったかな」

ありす「感電したと思う。命までは奪わなかったと思うけど」

麗 奈「やりすぎだよ、あの女」

ありす「——サイバーランドの秩序を守るって言ってた……」

麗 奈「そりゃ確かにさ、ちよつと何でもアリっていうか、乱れてるところはあるけど。でも、そこが楽しいんじゃない」

樹 莉「そーだよそーだよ」

ありす「うん……」

サイバーランド／レヴェル1

コミュニファイの飛行船が飛ぶ。側面のディスプレイに浮かぶCMキヤスター。

キヤスター「コミュニファイ・アクセサーは、シェアの70%まで伸ばしました。今やサイバーランドにアクセスするのは不可欠とも言えます。アクセサーはフリーウェアです。コミュニファイのサーバーから今すぐダウンロードしてください。あなたの知らないサイバーランドが開けます」

そして——、レヴェル1を無数の青い卵たちが高速で行き来していく。

それを見上げている、半透明のありす。

ありす、移動。

サイバーランド／情報ハイウェイ

凄まじいトラフィックの高速回線。

そこを走るものの多くが、青い卵の姿。

卵 「邪魔だよ！ ちゃんとメタファライズしてない奴がこんなとこいちゃだめだ！」

ありす「あつ、ご、ごめんなさい」

ありすの部屋

ありす、ゴーグルタイプの簡易ダイヴ・システムを

外す。

ありす「ふう……」。

すっかりサイバーランドは青に染まっちゃった……。なんか、つままない。けど——、確かにコミニファイ・システムは優れているところがある。あたしのアリス・システムより……」

ありす、窓外を見る。

ありす「——ルシアはもういない……。あたしを助けてくれる人は、もう……」

と、NAVEIが自動で仮想モニタを開く。

ありす「うん？」

S「メールが入りました」

ありす「誰？」

ピッ。画面に浮かぶのは——麗奈。

麗奈「ありす♡ 起きてた？ 大変だよ！ テレビ見て！」

ありす、NAVEIに飛びつき、テレビ回線を開く。

アナウンサーが映る。

アナ「——この時間は予定を変更して、コミニファイ社への予告テロのニュースをお送りしています」

ありす「テロ……」

解説者「世界中のサイバーナキストには、それぞれの主義主張がありお互いに相いれない筈です。それなのに彼らは団結してコミニファイを集中ハッキングをしようという。

これは前代未聞の、サイバーランド最大の事件です」

ありす、部屋を飛び出す。

ありすの母「（オフ）ありす♡ こんな時間どこ行くの？」

ありす「（オフ）ご、ごめんなさい。ちょっと、あの、その宿題を……」

ありすのマンション

飛び出してくるありす。

走りながら腕のNAVEIに

ありす「麗奈！ 今向かってる！ 樹莉、起きて！」

マシン・ルーム

ドライ・スーツに着替えた三人が立つ。

麗奈「どうせコミュニファイにはデンジエルスがいるじゃん」

樹莉「そーだよ。何もあたしたちが守る必要なんて無いと思う」

ありす「（固い顔）世界中のサイバーナキストだよ。どんなに優

れたネット・ダイヴァーでも、防ぎきれない。サイバー

ランドの平和を守るのが、あたしたちの仕事でしょ」

麗奈「——そんな使命って、あたしたちあつた？」

樹莉「うーん」

ありす「ごちゃごちゃ言っつてない！ 早く！」

タンクに横たわるありすたち。

ありす「ダイヴ・イン！」

サイバーランド／縦パス

ゴオオオオオオオ！

急速降下していきありすたち。

ありす「コミュニファイのサーバーのアドレスは」

麗奈「コピーしてある。太平洋の真ん中」

ありす「アドレス・セット！」

三人、互いのNAVIを突き出し合う。

ピピ 情報交換がなされた。

ありす「飛ぶよ！ アドレス・ジャンプ！」

三人の姿、光に包まれ、瞬時に移動。

コミュニファイ・サーバー前

雲の海にそそり立つ、要塞の様な城。

その前に実体化するありすたち。

ありす「あれが——コミュニファイのサーバー……」

城の四方から、無数の光線がビシビシと当てられて

いる。

麗奈「攻撃が始まってる！」

ありす、城に向かっていく。

麗奈「ありす！」

樹莉「い、いくの？ やっぱし？」

続く二人。

城の周囲には無数のサイバーナキストたちが様々な姿で集結していた。

獣化、機械化、モンスター化、美形化——。

機械人「サイバーナスキトにとって最も恥辱なのは、本名と素顔を晒される事だ。コミュニティは許せない！」

ベム人「サイバーランドをファッショ化するヒトラーだ！」

言いながら攻撃を執拗に続けるサイバーナキスト。

ありす「やめてええええっ！」

攻撃がとまる。

機械人「お前などに用はない！ どけ！」

ありす「あなたたちがそういう事をするから、サイバーランドを統一しようなんて考える人が出てくるんだよ！ そんな

ことでは解決しない！」

ベム人「ふざけるな！」

ありすに攻撃を加えるベム人。

ありす「きゃあああっ！」

麗奈、ベム人を一閃。

ベム人「うわっ！」

麗奈「なめてんじゃねーよっ！」

と！ エリーズの声が響く。

エリーズの声「サイバーランド・プリンセスたち。あなたたちの助けなど要らない。ここを立ち去りなさい」

樹莉「何ていいいぐさ！」

ありす「何をするの？」

ゴゴゴゴゴゴゴ

城の側壁が開く。

麗奈「——デンジエルズのおでましか」

光に包まれた、三人の少女が現れる。

エリーズ、マキシ、フレダ。それぞれに凝った衣装を身に着けている。

エリーズ「虫けらども！　ここまで潜ってきたことを後悔するがいい！」

ありす「まさか！」

デンジェルズ、フォーメーションを組んで――

巨大な光の渦を作り出す。

マキシ「フィードバック・インパクト！」

ありす「うそ！　そんな事したらリアル・ワールドの本体まで！」

渦、どんどんサイバーナキストたちを呑み込んでいく。

サイバーナキストたち「ぎゃあああああ！」

ありす「やめてーっ！」

フレダ「（嘲笑）どうしてやめなきゃいけない？　みんなあたし

たちを応援しているのに」

ありす「えっ！」

ありす、振り向く。

いつしかそこは、世界中のサイバーランド・ワッチの対象となり、無数のウィンドウが虚空に開いて、人々が覗き見ていた。

市民1「やれーっ！」

市民2「いいぞーデンジェルズ！」

市民3「やっちまえー！」

呆然となるありすたち。「選択」

麗奈「ふざけてる！　どっちが強いか教えてやろうじゃない！」

樹莉「もう、帰ろう？　あたしたちの出る幕じゃないよ」

ありす「あんなこと……、絶対駄目……」 「以下ありすモード」

と、いきなり眼前に半透明のサイバー・レポーターが実像化する。

レポーター「今入った情報によると、サイバーナキストたちの本体が次々と瀕死の重症を負って、病院に運ばれているそうです！　これで二度とサイバーランドの平和を乱すことはないでしょう！　我々はデンジェルズとコミュニフ

アイに感謝を捧げねばなりません！」

暗然と見つめるありす。

デンジエルスたち、笑みを浮かべてギャラリーに手を振っている。

樹 莉「戻ろうよ、ありす」

麗 奈「そうだね……。ありす？　ありすどうした？」

ありす「あんなやり方、絶対駄目……」

ありす、デンジエルスの前へ飛ぶ。

樹 莉「ありす！」

ありす「あなたたちがやったことは、サイバーナキストたちと変わらない。サイバーランドの事はサイバーランドで解決すべき。リアル・ワールドの肉体まで痛めるなんて酷すぎる」

マキシシ「なに？この女」

フレダ「（冷笑）今までちょっと人気があつたからやつかんでんだわ」

エリーズ「あなたの時代はもう終わったのよ、ありす」

ありす「そんなこと言ってるんじゃない！　判らない！」

ずいっと前に出るマキシシ。

マキシシ「こんなガキ、あたし一人で倒せるよ」

ありす「あたしは闘いたいんじゃない！　話し合いたいのに！」

エリーズ「マキシシ、遊んでやれば？」

マキシシ、戦闘モードに変身。

ありす「どうしても、闘うのね」

身構えるありす。

マキシシ「破ッ！」

ガッニ 激突する二人。

ありす、ソードを出して応戦。

しかし——圧倒的に強いマキシシ。

マキシシ「アハハハハハハニ サイバーランド・プリンセスなんてそんな程度だったの」

ありす「くうっっ！」

ガキンニ ソードが折れた。

麗 奈「ふざけんなあああっ！」

麗奈が突進！ 樹莉も続く。

マキシシ「用済みなんだよ、あんたたちは」

ガアアアンニ

マキシシが放った電光弾が二人を襲う。

麗奈＋樹莉「キヤアアアアツツ」

エリーズ「（冷たく）早くエキジツトしないと、リアル・ワールドに戻れなくなるよ」

満身創痍のありす、口惜し涙が頬を伝う。

ありす「力で、力で支配するなんて、間違ってる」

フレダ「それは、力のない者の泣き言にしか聞こえないわ」

ありす「——」

ありす、NAVIを樹莉たちに向けて光を送る。

ありす「強制エキジツト！」

二人、浮上していく。

ありすも浮上を始める。

哄笑しているマキシシ。

マキシシ「アハハハハハ、アハハハハハハハハハハ」

レポーター「サイバーランドはコミュニファイがこれからも守つ

てくれることでしょう！ ありがとうコミュニファイ！

ありがとう、デンジェルズ、美しき守護天使たち！」

ありす、樹莉、麗奈と合流。

麗奈「たった一人にやられるなんて……」

樹莉「——あたしたち、もう……」

ありす「——」

ありす、絶望の色が目に浮かんでいる……。

End of the Part